

7 環境緑化工事

(1) 墳丘植栽工

墳丘の地被植栽については見学者が一目で墳丘を識別しやすいように、周囲の造成箇所の法面保護の張芝とは異なるコグマザサとした。これは張芝の高松塚古墳との差別化を意識したこともある。コグマザサは背丈は大きくならず、墳丘の形状を柔らかく表現することを期待した。植栽範囲は墳丘部の表示のため2段築成の墳丘部だけとし、盛土の流出防止を兼ねた。墳丘北側の墳丘築造時の地山削り出し部分は張芝にて表示した。

コグマザサ 6,289株

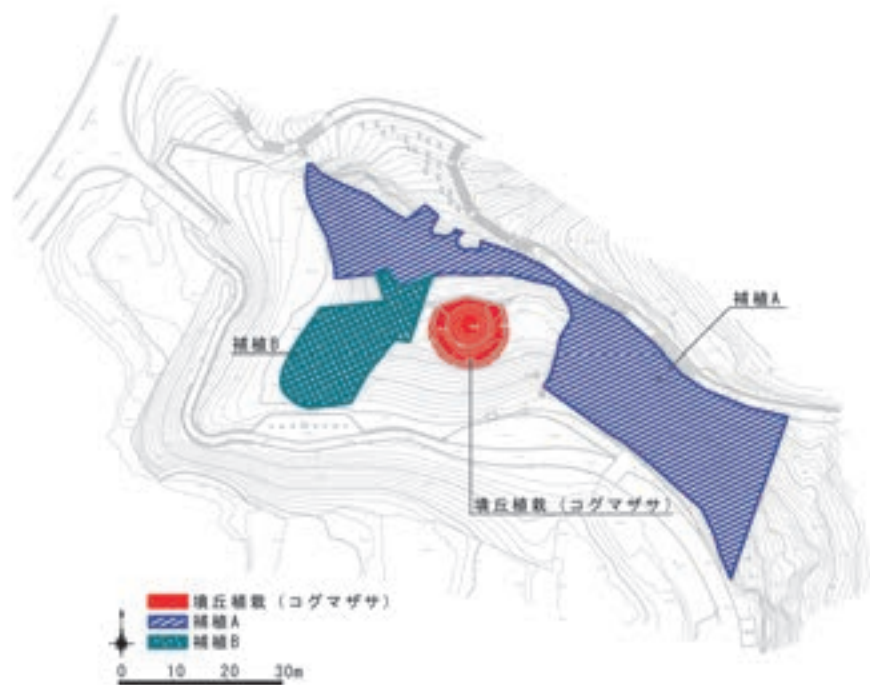


Fig.133 植栽平面図



Fig.134 コグマザサ施工状況



Fig.135 コグマザサ植栽完了

(2) 補植工

墳丘周囲および西側の地形は復旧を目指して地形の改変を行ったが、東側の丘陵部分の地形は現状のままとした。そこに植林されていた既存の針葉樹は前述のように伐木し、落葉広葉樹林への変更を行った。

補植A地区は、クヌギ及びコナラの落葉広葉樹を主体に常緑広葉樹のアラカシを1割程度混植した。

補植B地区は、復旧した尾根地形の強調の目的と、村道平田阿部山線側より墳丘が見えないように遮蔽する目的でアラカシ及びヤブツバキの常緑広葉樹を重点的に補植した。

補植を行うに際して現況斜面に根鉢を掘って植え付けるため、根鉢部分の植栽客土が流出する可能性があることから、経年変化で自然分解されるジュート系防草シートを1m四方に貼り込み、植栽客土の流出防止を図ると共に下草が生えるのを押さえることとした。

クヌギ 30本 コナラ 30本 アラカシ 6本 ヤブツバキ 6本

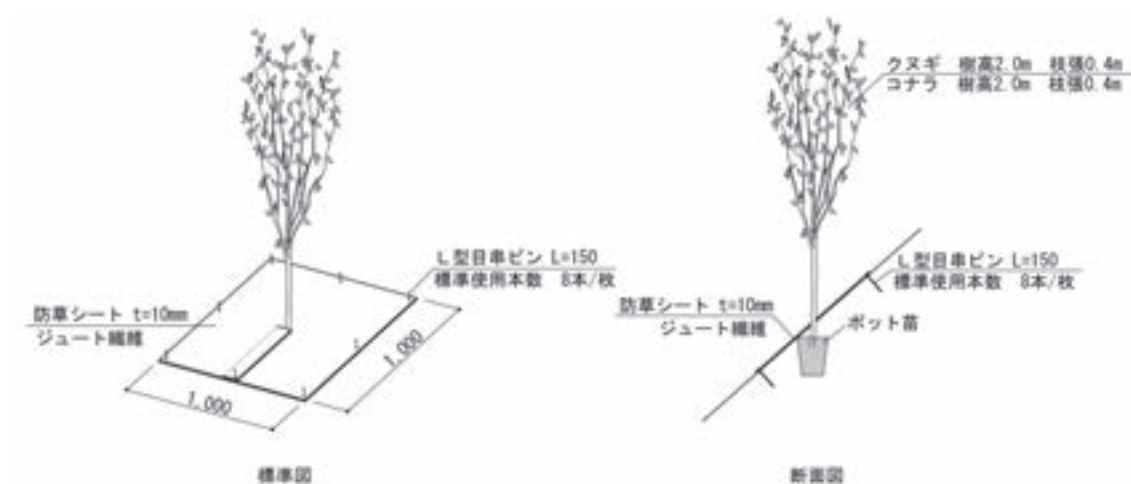


Fig.136 根鉢保護詳細図



Fig.137 補植A施工状況



Fig.138 補植A施工完了



Fig.139 補植B施工状況



Fig.140 コナラ植付状況



Fig.141 補植B施工完了

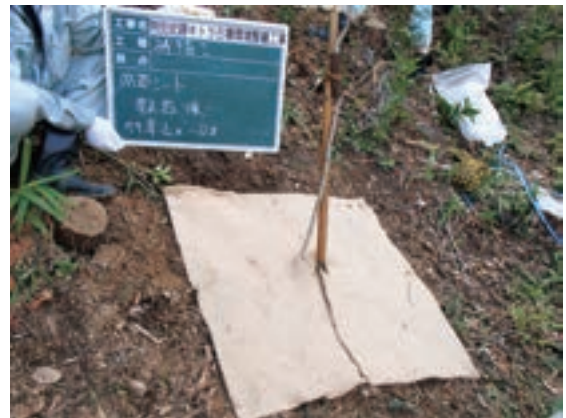


Fig.142 根鉢ジュート系防草シート

(3) 張芝工

墳丘以外の造成部分は、当初の計画ではチガヤマットを使用した自然景観に配慮した盛土の流出防止を行う予定であったが、チガヤは背丈30cmから50cm程度に成長し墳丘部を隠しかねないため、墳丘部のコクグマザサと見学者が一目で識別できるようにノシバに変更した。これは土砂流出防止のための1次植栽として整備であり、整備後は、草刈りを適宜実施しながら地域の地被植栽に遷移させていくものである。

張芝法面	2,061 m ²
張芝平面	1,063 m ²

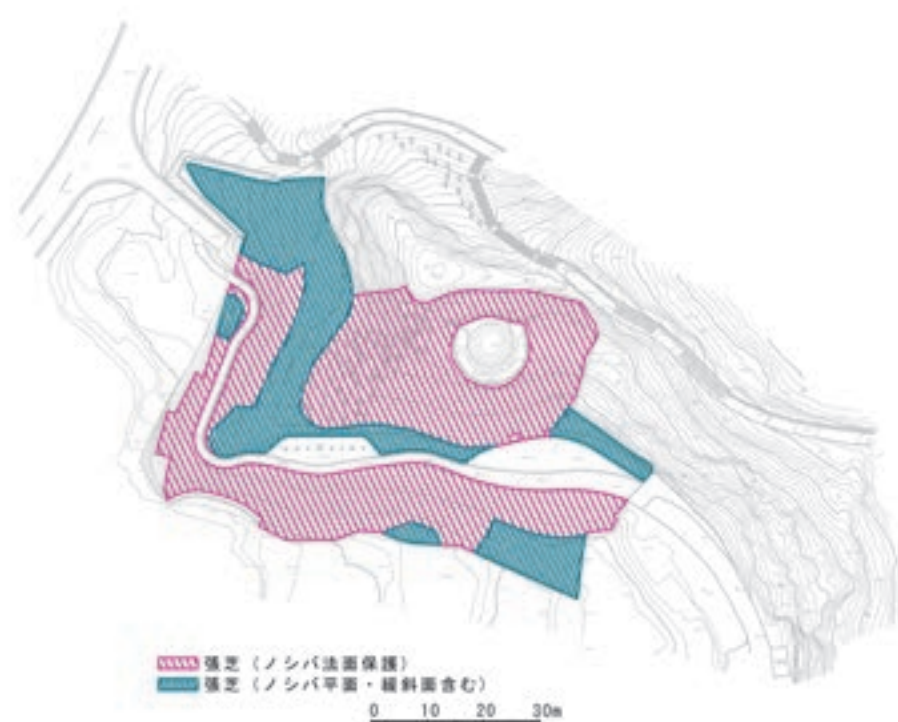


Fig.143 張芝平面図



Fig.144 張芝施工中



Fig.145 張芝完了